

<目次>

●川崎市、国葬で半旗掲揚は実施せずも市長は公費で出席

■先生が足りない

▲ お知らせコーナー

☆10/11 西加瀬巨大物流倉庫建設中止を求める市役所前昼休み宣伝

☆10/14 「危ないウルサイ」新飛行ルートストップ！シンポジウム

☆10/29 ゆめシネマ「ウクライナと戦争を考える日」

★ 編集後記

●川崎市、国葬で半旗掲揚は実施せずも市長は公費で出席

9月27日の国葬での川崎市の対応は、7月12日の安倍家葬儀の際の対応とは大きく変化しました。

そこに何があったのでしょうか。

去る7月12日の安倍元首相の家族葬では、総務企画局長名で「哀悼の意を表するため国旗、市旗の半旗掲揚をする」依頼文を出しました。

そして、市教委はこれを受けて同様の通知を市立学校に発出しました。数校では半旗が掲揚され「哀悼の意」を市民や子どもたちに示しました。

マスコミでも、川崎市の学校への要請に対し疑問視する記事が大きく報道されました。特定政党の政治家への弔意の強制は、学校の政治的活動を禁じる教育基本法に抵触します。

しかし、記者会見で、福田市長は「政治的中立を侵すものではない。」「基準がない中で、市長の私が判断した。」と発言し、市民に衝撃を与えました。

すぐに、市民団体・労働組合や個人が抗議の声をあげました。国葬への対応で再び、川崎市が過ちを繰り返さないように市長や市教委への要請行動、街頭での宣伝、シール投票、記者会見など、短期間に大きく広がりました。

今回の国葬で、川崎市は「国通知のみに限定」との基準を作り、半旗掲揚も黙祷も一切実施しない対応となりました。

9月27日までの新聞報道では、「半旗掲揚も黙祷もなし」とした政令市は川崎市だけと発表されました。

2 度にわたり抗議行動を行い、川崎市に国葬での弔意強制反対を申し入れた新日本婦人の会の桜井悦子さんは、「私たちの他にも、ずいぶんたくさんの方が、川崎市に抗議をしていました。

今回の市の対応は市民の運動の成果です。」と語ります。川崎市教職員連絡会は、川崎市教委に「学校が弔旗掲揚や黙祷を行わないよう徹底すること」を申し入れ、市教委と懇談し、学校現場からの声を直接伝えました。

7 月から 9 月へ、川崎市政の対応に大きな変化（改善）を作り出したのは、国葬反対の大きな世論と、川崎市の行政機関や市教育委員会に向けた市民の行動だったと思います。しかし、福田市長は、国葬に「招待を受けた市長として出席」しました。

招待を受けても、今回の国葬への疑義を表明し参加しなかった方もいるのです。（報道では 4 割が欠席）

市民の中に多数の反対意見がある中で、公費を使って参列をしたことには、強く抗議をします。

■先生が足りない

4 月は、子どもたちが新たな希望のスタートをする時期です。

しかし、今春、いくつもの学校で、先生が足りないという異常な事態が出現しました。

4 月に不足した先生の数は、小学校 26 人、高等学校 8 人でした。

これにあわてた市教育委員会は、臨時の先生募集をするなどの特別対策をとり臨時の先生をなんとか見つけて欠員をうめようとしました。

しかし、年度が進めば今度は、産休に入る先生や、体調をくずして療養休暇をとる先生が出てくるのです。

今度はその代わりになる先生がいらないという事態になりました。

結局、この夏休み明けには、小学校 26 人、中学校 1 人、高校 7 人、特別支援学校 1 人の先生が足りなくなりました。

学校現場では

- ・産休の先生の代わりが来ないので校長と教頭が授業を担当してやりくりしている。
- ・必要な教員が配置されず少人数授業ができなくなった。
- ・産休が近づいたので代わりの先生の見通しを聞いたら数十番目だと言われてもうだめだと思った。
- ・子どもたちに迷惑をかけてまで育児休業を取っていいのか悩んでいる。

などの声が寄せられています。

法律で定められた先生を配置するのは、教育委員会の一番の仕事です。

それなのに、なぜ先生が足りないという異常事態が起きたのでしょうか。

その理由は明らかです。まず、欠員を埋めるだけの正規の先生の募集を市教委が渋っていることです。

そして、正規の教員数の一部を臨時の先生で埋めていく方針を平気で続けてきたことです。

昨年度、260人以上の臨時（1年契約フルタイム勤務）の先生が、正規教員の欠員をカバーして採用されました。

臨時の先生であれ、担任も含む正規教員と同様の仕事をして穴を埋めてきたのです。

しかし、とうとう今年度は、正規教員の不足を臨時の先生でカバーする方針は機能せず、4月で34人、夏休み明けで35人も、先生が足りなくなっているのです。

昨年度、定年退職した教員数は122人、当初の定数内欠員数は272人でした。

欠員を解消するためには、定年を前に退職する方の人数（昨年は135人）も加えて採用数を増やすことが必要でしたが、教員採用試験の募集数は約260人で、実際の採用は325人でした。

しかし、これでは、全く足りません。

子どもたちの豊かな教育と成長を保障するためには、臨時教員でなく、ゆとりある継続的な教育ができる正規教員を配置することが必要です。

▲ お知らせコーナー

☆西加瀬巨大物流倉庫建設中止を求める市役所前昼休み宣伝

10/11（火）本日

12時から12時半

川崎市役所前

☆「危ないウルサイ」新飛行ルートストップ！シンポジウム

ー各地の運動から学び合い交流しましょうー

10/14（金）18時20分～20時30分

教育文化会館 6F 大会議室

参加費（資料代）：500円

☆ゆめシネマ「ウクライナと戦争を考える日」2本立て+講演

「ピアノ・ウクライナの尊厳を守る闘い」43分

<https://ukraine-piano.com/>

「ドンバス2016」54分

<https://www.youtube.com/watch?v=ln8goeR5Rs4>

講演：羽場久美子青山学院大名誉教授・神奈川大教授

「武力で平和は築けない、即時停戦がいのちを救う」60分

<https://www.youtube.com/watch?v=OXdJXUttG-c&t=1645s>

10月29日（土） ①9時 ②13時

かわさきゆめホール

入場料：一般1000円 障がい者500円 学生以下200円

当日100円増

申込み：044-433-3003

cinema@kawasakiyume.com

★ 編集後記

メルマガ 40 号の編集後記に、2 名の読者から批判をいただきました。

40 号編集後記は、最後を「即時停戦こそ命を守る道です。今必要なのはウクライナ応援ではなく、アメリカはウクライナから手を引け！ではないか。」と結びました。

これに対し、A 氏から「ロシアにとって有利な『即時停戦』を主張する、まさしくプーチンのプロパガンダでは？『新しい川崎』にこれほど酷いロシア・プーチン擁護の文章が掲載されるとは驚きを超えて呆れる思いです。」とメールでの批判。

また、B 氏からは口頭(電話)で、「今日も、街頭で『ロシアはウクライナ侵略を止めよ』の宣伝をしてきた。戻ってきてメルマガを読んで、ショックだった。」と話されました。

メルマガ「新しい川崎」は、川崎民主市政の会の責任で発行をしています。この批判を受け止めて、7 日に臨時の事務局会議を開き、話し合いました。以下はその報告です。

【メルマガの編集体制と今回の問題について】

1. 編集後記は、該当する号の編集者が自由に書くものとしてきた。しかし、今回の内容は、読者の批判の通り「ロシア・プーチン擁護」と受け取られるものであり、編集者の「自由」の域を超えている。

2. 編集後記は、会の目的である「非核・平和と民主主義を守り、憲法を暮らしの中に生かす市政実現に向け市長選挙を たたかう共同組織として活動する。」に相応しくないと判断する。40 号は、ホームページのアーカイブ版にて修正して掲載する。

3. メルマガの発行体制は、発行前日の月曜日に事務局編集担当者で事前読み込みをして必要な修正を行うとしていたが、その責任体制があいまいになっていた。

4. 特に 40 号は、全く Y 氏にお任せになった。事務局としての責任放棄を反省する。

5. 今後は、事務局から編集担当 3 名を明確にし、必ず事前読み込みし、火曜日の発行を進めていく。

川崎民主市政をつくる会事務局